

関東のいづもさん通信 むすひ

発行
出雲大社相模分祠
神奈川県秦野市平沢 1221
TEL:0463-81-1122
FAX:0463-82-1728
編集兼発行人
副長 草山和泉
季刊毎年 2 回発行
http://www.izumosan.com/



青々としたほおずき・朝顔が参道に整然と並ぶ。

ほおずき市・朝顔市開催

七月七日〜九日関東のいづもさん夏の風物詩でもある毎年恒例のほおずき市朝顔市が本年も開催される。新暦の暦に沿った夏のお盆行事。境内参道には五百鉢以上の色鮮やかな赤や緑の実を携えた竹かご入りのほおずきが立ち並び、併せて瑞々しい花を咲かせる朝顔も夏の縁日の景色を飾る。ほおずきの実が明々と灯りのともった提灯飾になぞらえて、古くより御霊迎えのお盆の花として重宝される。ご家庭にてお盆の先祖供養にお供えすると良いとされる。

ト販売や、炭焼販売等も出展する。また当社の近隣の南秦野保育園の園児達による神話塗り絵の奉納展示や、江戸千家のお茶会(無料)、創作和太鼓や居合演武などの伝統的な行事も境内にて開催する。多くの行事で賑わう夏の晴れの縁日に、奮ってお越し頂きたい。

(尚、新暦お盆七月十三日〜十六日・旧暦月遅れお盆八月十三日〜十六日ともに祖霊社にてお盆の先祖供養の参拝を受け付します。)

※ほおずき(大祓の縁起物付竹かご入り) 一五〇〇円。
※朝顔(大祓の縁起物付竹かご入り) 一五〇〇円。
※切花ほおずき 一〇〇〇円。
※イベントは都合により急遽変更あり。

『龍蛇神の社』特別拝観

出雲大社相模分祠「千年の杜」の守護神として、お祀りされる「龍蛇神様」は大地の神・水の神・金運・縁結びの御利益のあるダイコク様の御仕神様。千年の杜では慶長十四年より湧水する「ゆずりの水」が溢れ、夏には蛍の飛び交う幻想的な鎮守の杜である。また、環境省指定の全国名水百選にも選定されるこの湧水を取りに多くの水とりの人々で賑わう。また、ほおずき市朝顔市期間中にほおずき・朝顔をお求めの方には千年の杜「ゆずりの水」のお水とり用のペットボトルを無料にて贈呈して



ほおずき市の期間中、お楽しみガラガラ福引きを開催(はずれなし)!! ほおずき市のチラシに福引券がついているほか、龍蛇神の社をご参拝の方にも配布しております。

実力派、そして癒し系のプロ演歌歌手山内二郎くん。その甘いマスクと抜群の歌唱力をもってデビュー作「恋の新幹線」を熱唱。たくさんのファンが押し掛け、さわやかな人柄に思わず観客も笑みがこぼれる。



また、ほおずき市・朝顔市の期間中には、普段は閉ざされている龍蛇神の杜を開扉し、神殿内に鎮座される龍蛇神様を直接拝む特別拝観が開催される。古くより、出雲の地では旧暦十月十日に全国の神々が参集し、縁結びの会議がなされるといわれる。私たちが十月を神無月と呼ぶ所以でもあり、出雲地方では神在月・大忌(おおいみ)さんとも称し特別な信仰がある。この神々が集う出雲の地に全国の神々をご案内先導する神様が龍蛇神様である。縁結び・金運の御利益をもつ龍蛇神様にぜひこの機会にご参拝頂きたい。

神語奉書奉納の御案内

六月〜八月月上旬にかけて神語奉書の奉納のご案内を申し上げます。皆様の願い事を込めて謹書して戴いた神語奉書は八月七日の出雲大社教団大祭(島根県)において、大國主大神様の大御前にてご祈念し奉納致します。

「幸魂」とは、「花が咲く」「布を切り裂く」「物が割き分かれる」という言葉のよりに、物が分裂し、増加繁殖して栄える力を意味します。「奇魂」とは、「櫛」「串」の言葉のように、「櫛」で乱れた頭髮を解いて整える、「串刺し」にして、それぞれ物を統一する」というように、統一し調和する力を意味します。

神語奉納用紙のフォーマット。項目: 住所、氏名、生年月日、奉納先(幸魂奇魂守給幸給、幸魂奇魂守給幸給、幸魂奇魂守給幸給)。



迫力の居合演武



秦野市観光和太鼓



艶やかなフラダンス



お茶会(江戸千家)

出雲大社(島根)参拝団体旅行のご案内
出雲大社特立一三五年の周年を迎え、当分祠で久方ぶりとなります島根県出雲大社への団体旅行を計画しております。

ほおずき市イベント一覧

七月七日・龍蛇神の社祝祭(十四時〜)
八月・無双直伝英信流居合演武(十時半〜・十一時半〜)・創作和太鼓(十一時〜・十二時半〜)・山内二郎演歌コンサート(十四時半〜)・たかし&秀能二人のビッグショウ(十五時半〜)・おわら盆踊り(十七時〜)

九日・秦野市観光和太鼓(十時半〜)・花笠踊り大黒舞(十一時半〜)・演歌歌手遠藤陽子(十三時〜)・フラダンス(十五時〜)
※その他飛び入りあり

夏の行事のご案内

一、月次祭
毎月一日午前十時三〇分齋行
事前予約不要・無料
月始めにあたり一か月の国家安泰・地域の安全・家内安全・日々の暮らしの安全等を祈願する神事です。出雲神楽による巫女舞を奉納すること月次祭にはどなたでもご参列頂く事ができます。月次祭に併せて縁結び・家内安全・交通安全・厄除け等各種ご祈願承ります。

また、翌日は島根の安芸の宮島厳島神社に参拝、観光等予定しております。ちょうど八日は宮島では厳かな管絃祭が催され、島内全体が一年で最も盛り上がる祝祭日の一つとなっております。人数に限りがありますが、ので興味のある方はお早めにご連絡下さい。

●平成二十九年八月七日〜九日 詳細は当分祠のHPもしくはお電話でご確認ください。

一、夏越の大祓
一、茅の輪くぐりの神事(詳細四面)
六月二十五日(日) 十五時
六月三〇日(木) 十八時
七月二日(日) 十六時

一、ほおずき市(七月)
境内参道にて
七日(金) 十時〜十八時
八日(土) 十時〜十八時
九日(日) 十時〜十七時

一、風鈴まつり
ほおずき市より八月下旬境内に五百個の風鈴をかけ、縁結び厄除けを願う。期間中は縁起の良い七色の音色を奏でる勾玉鈴を御用意致します。

大花見会

四月五日午後六時より本年で六回目となる出雲大社相模分祠恒例の大花見会が斎行された。平成二十三年の東日本大震災を受けて、翌春より境内にて地域住民が集まり、想定される災害に対して「みんなで力を合わせて頑張ろう」という意味を込めて、チャリティーの花見会を開催し、その収益を宮城県名取市にある閑上（ゆりあげ）地区

【協賛（順不同）】

秦野市観光協会・鳶芦川株式会社イズミ物産・小野印刷工業・一日詣一同・合同会社MOTO・斉藤衣裳店・すびなつつおら・華屋酒販・北京館・村山藤吉商店・和菓子処八雲庵・杜のとうふ工房三河屋・やなぎ家・南秦野保育園・美容室レスポワール・笠原良夫・関東警備システム・シャトレイゼ秦野洪沢店・花もと・タウンニユース社・西湘イベント商業協同組合・立正佼成会厚木支部・ギャラリー宙

謹んで感謝申し上げます

湊（みなと）神社の復興支援として寄付するものである。

昼過ぎより有志約四十名の協力のもと、おにぎり・御餅つき（十五kg）・お赤飯（十五kg）・バナナや豚汁の炊き出し等の食べ物約四百人前用意した。多くの篤志家・企業奉賛のおかげをもって大変活気のある花見会を催すことが叶った。

参加費一人一〇〇〇円、但し中学生以下は無料とする中、家族連れが多く二十八万七千五百三十円の寄付があり、同月全額を無事に湊神社伊藤宮司

にお届けした。伊藤宮司はじめ氏子総代より丁寧なる感謝の手紙を頂いた。

大花見会に先だつて十七時三十分より、御社殿正面の石階段上にて、大花見会の協賛者をはじめ地域県議会議員・市議会議員・氏子地域崇敬者達百名以上の花見客が参列し、草山清和分祠長齋主の下、東日本復興祈願祭を斎行した。

心一つに、一日も早い被災地域の復興をお祈りした。



夜桜観賞

本年の桜の開花具合は例年より一週間ほど遅く、満を持しての花見会の日程決めであったが、当日は天候にも恵まれ五分咲き程の開花具合で参加者の心を楽しました。玉砂利を敷き詰めた境内に緋毛氈を敷き詰め、夜間ライトアップの下、十八時から二十時まで約五百人の参加者と夜桜観賞を満喫した。

この花見は震災を忘れない意味と地域の人たちが集まることよって防災の訓練となる意味を持つ。核家族化が進み、古くからの近所づきあいが薄れゆく昨今、信徒・崇敬者・氏子・地域住民が損得勘定なしに一つの目



平成 27 年の夜桜の様子。
天気も素晴らしく満開のソメイヨシノがライトアップされている。

湊神社復興支援活動

宮城県名取市閑上地区湊神社伊藤宮司と当社とは古くよりのご縁があり、昭和の頃伊藤宮司が、出雲大社相模分祠に奉職し、修行・祭典奉仕などをしていた関係がある。のちに故郷閑上地区に帰郷し、氏子地域また湊神社の発展の為活躍されていたところ、悔しくも被災に遭遇し多大な被害をこうむった。健御賀豆を祀る湊神社の創建は古く、室町時代の応永年間（一三九四～一四二七）に大和の春日大社より御分霊を勧請した歴史を持つ。六百年近くの歴史をもつ同神社であるが、悔しくも東日本大震災の大津波の直撃を受け、宮城県名取市閑上（ゆりあげ）地区の約八百人、住民の五人に一人が犠牲となった。

震災直後の四月、相模分祠副長はじめ有志一同で閑上地区湊神社・被災地域の関連神社・出雲大社教の教会の援助に伺った。

高速道路はじめ公共交通機関もまだまだ回復しない中、自分たち個人の力でのような助けができるかわからない状態ではあったが、飲食物のお届けをはじめ、できる限りのお手伝いを行った。寺社仏閣もその重要な歴史的遺産をはじめ社殿や鳥居も流されてしまい何キロも先の瓦礫の中を探索するよう有様であった。特に閑上地域の被災は

湊まじくすべての建物が倒壊し流失してしまい、やつとのことで瓦礫をよせて道を作っていた。のちに発見された石碑や神社の神様を今一度小高い丘にある日和山（ひよりやま）に移動させて改めてお祀りし復興の先駆けとなった。

津波により地域の大半が流失してしまつた閑上地区であるが、現在復興の象徴として閑上地区被災一帯を見渡せる日和山に閑上湊神社と富主姫神社を御遷し鎮魂の場として祀っている。

今では神符や守札の授

与所もできて、秋の大祭では氏子・崇敬者の協力の下、神輿渡御や神賑い行事も斎行され、復興の機運も高まつている。しかし、被災地閑上地区の現状をみると今をもつてしてもまだまだ震災の傷跡も痛々しく、まだまだ人が安心して住める状態とは言えない。

我々一人一人にできることは小さいかもしれないが、震災の教訓を忘れることなく助け合いの心で引き続き閑上地区湊神社の応援をしていきたい。



日和山よりの風景。氏子が集まり例大祭をお仕える様子。神輿など全国の神社有志より援助があった。

秦野桜の採取

四月二十四日秦野市千村の山間にて分祠長はじめ有志による食用桜の摘み取りが行われた。

頭高山周辺の秦野市千村地区は、八重桜の里としても有名で、江戸時代末期から地域の祭り費用を賄うために始められたと言われている。

戦後、各農家が植樹を重ね、今では千村地区一帯で二本ほどが栽培され美しい里山の景色を見せている。八重桜は、ソメイヨシノよりも開花が半月ほど遅く、四月中旬になると花の摘み取り風景があららちらで見られ、塩漬けにして和菓子や飲食物などにも重宝される。

千年の杜

相模分祠境内西側に位置する『千年の杜』では、平成十九年の植樹祭以来大きく成長した樹々が心地よい木蔭をつくり、清流のせせらぎは心を潤し、この時期ウグイスの鳴き声と共に参拝者の憩いの場となっている。



○千年の杜
いのちの森づくり
私たちが行う森づくりは、故郷の木による故郷の森づくり、千年の杜、いのちの森づくりである。人が知らず知らずのうちに壊してしまつた生態系を、これからの『いのち』のために正し、生きとし生けるものが『生きることのできる』環境を残そうとする試みともいえる。

世界中で環境が破壊され、生物が絶滅していきなかに、この秦野の地から世界に向けて、千年先まで続く森をつくり、子孫の為、愛する人等の為に千年の杜、いのちの森を皆の手でつくる必要がある。

○全国名水百選
平成二十八年、環境省

この千村の八重桜は食用として全国でも有数の生産地となっており、桜の塩漬けは、秦野の各所で人気の一品である。

此度、当分祠直営の和菓子処八雲庵（やくもあん）において新たに秦野を代表する桜を使った和菓子の開発に着手すべく、地元桜の採取に至つた。同日花びらを傷つけないよう細心の注意をもちて摘み取られた桜の花は、八十kg以上の収穫量となつた。早速その日の内に新鮮な漬物にして、傷んだ部分や余分なところを取り除くと美しい色あいと風味を残した桜の塩漬漬が完成した。そして、来年の春の販売に向けて開発が始まる。

このあと桜の塩漬けは和菓子作りで有名な島根

県出雲に持ち込みペースト状に特殊加工し、美しい色合いのピンクの金平糖や香り豊かな和菓子作りに挑戦し、平成三十年の春頃の販売を予定する。「ハダ恋桜」で盛り上がる秦野の新名物になるべく鋭意開発に努めたい。



の主権によって開催された「名水百選」選抜総選挙において、秦野のお水が「おいしさ」部門一位に輝いた。

「名水百選」選抜総選挙とは、国が選定した「名水百選」三十周年を記念して開催され、全国二百の名水の中から四部門において人気や認知度が競われました。

その「おいしさ」部門にて総票数の実に半数以上を獲得し、断トツの人気を誇つたのが、豊かな丹沢山系が育んだ秦野の名水である。

相模分祠千年の杜を流れる「ゆずりの水」もまた、この丹沢山系の地下水に属する天然の湧水。お水を求めて、毎朝毎夕たくさんの参拝者が訪れる。

燿変天目

燿変天目茶碗（ようへんてんもくちやわん）とは、今から約800年前に中国南部の福建省・建窯で作られたと言われております。世界の陶芸史上最も美しく、そして最大の謎に包まれた幻の茶碗です。現存する燿変天目茶碗は世界に3点しかなく、そのすべてが現在日本において国宝に指定されています。徳川家康をはじめ、数々の大名に愛され現代に伝わる天下の名器です。その制作方法は全くの謎であり、偶然作り出されたものではないかとも噂されるほど再現することは不可能と云われた世界の至宝です。此度、天下の名器を蘇らすべく、その再現に情熱を注ぐ今話題の陶芸家 瀬戸毅己氏の燿変天目茶碗を展示予定です。その他、多数の有名作家も出展予定です。（入場無料）

出雲大社相模分祠
酒盃展 III
掌に宇宙を乗せる
平成 29 年 9 月
22 日(金)
~ 26 日(火)
出雲記念館 2 階
旭の間 10:00 ~ 17:00



菊作り

桜の季節も終わりを告げた四月末、本年度で二十四回目となる菊作り教室の第一講が開催された。本講習会は四月七月八月十月の四回を通して開催される盆栽菊作りの教室であり、十一月には受講生の作品が「祝七五三」として境内に展示される予定となっている。

講師は昨年より引き続き吉田孝雄先生をお招き

した。また、本年の受講生は十四名（内新規四名）で行われる。

受講生は十年以上参加している熟練者から、今年から参加している初心者まで様々な顔ぶれがあり、全くの初心者でも講師の先生や先輩受講生の指導により、秋には菊を無事咲かせる事が十分に可能となっている。

初回である四月三十日は草山副分祠長による挨拶の後、吉田先生からテキストの配布、講習会の説明が行われ、最後に菊の苗の分配が行われた。熟練者も初心者も秋に見事に咲き誇る自らが作り上げた盆栽菊を思い描き、笑顔で帰路についた。

●菊作り教室に関するお問い合わせは社務所・笠まで。

初夏にはホタルも飛び交う千年の杜の、清らかでおいしいお水をぜひお楽しみ頂きたい。

※蛍の見られる時期
五月中旬〜六月末頃
(予想)

※ゲンジボタルと少し時期をおいてハイケボタルが飛びます。

※ホタルは観賞するものです。マナーを守り、決して持ち帰らないで下さい。



七五三 衣裳展示会

7月8日(土) 9日(日) 要予約制 9:00~16:00 (最終予約15:30)

9月31日(日)

レンタル衣裳・着付・ヘアセット・メイク

7歳 30,000円より
5歳 15,000円より
3歳 22,000円より
※3歳男児は5歳と同じ料金です。

記念写真 6切/1ポーズ・台紙付 9,000円より
※年賀状プリントもできます

天候を気にせず移動なしで楽ちん!

着付 写真撮影 御祈願 会食 3,600円より

レンタル衣裳ご成約特典

9月-12月 レンタル衣裳 5%OFF
お子様 足袋 プレゼント
おでかけ OK 返却は翌日12時までにお願いします
ご祈祷 優先案内

写真撮影 1,000円引 図書カード 1,000円分 プレゼント

1 まずは展示会のご来館時間をご予約ください
2 展示会のときに衣裳ご利用日(七五三詣の日)をお決めいただきます
3 衣裳が決まりましたらご予約金をお納めください 現金のみ・カード不可

ご予約・お問い合わせは出雲記念館 TEL 0463-84-1122 まで

LINEメールの案内

日々の運勢・祝祭日の年中行事を配信する『いづもさん占いメール』(無料)にて、当社の恒例祭典並びに行事案内を随時お知らせしております。

左記のアドレスに空メールを送信すると登録できます。

※スマートフォン等ご自身の端末が左のドメインを受信できるように必ず受信環境を設定して下さい。

j@izt.jp

夏越の大祓ご案内

六月の晦日、恒例の大祓(おおはらえ)神事並びに茅の輪くぐりの神事が境内にて斎行される。

斎行日

六月二十五日(日)

午後三時

三十日(金)

午後六時

七月 二日(日)

午後四時

どなたでもご自由に参加できます。ご家族の皆様ぜひご参加ください。

古来我々の先祖は、毎年六月と年末に「大祓」によって心身を清浄にし、新しい半年の幸せを祈願しました。この祭儀に先立ち「人形・車形」をお届けいたしますのでご家族のお身体・お車をお清めになった後、同封の返信用封筒にてご返送いただき、大祭当日にご持参下さい。残り半年益々いっそうの「幸せ」のご縁をお授かりになりますようご案内申し上げます。

出雲大社相模分祠長
草山清和

【ご来社される場合】

当日ご参列の方は人形(ひとがた)・車形(くるまがた)をご準備の上、御祈願料(お気持ち)を添えて授与所・受付までお越し下さい。(予約不要・当日参加可) 大変込み合いますので二十分前にはお越し下さい。

【当日来れない方】

当日ご参加できない方は事前にお預かりすることが出来ます。人型、車形御祈願料を封筒に入れてご持参ください。

【郵送される場合】

ご参列の適わない方は郵

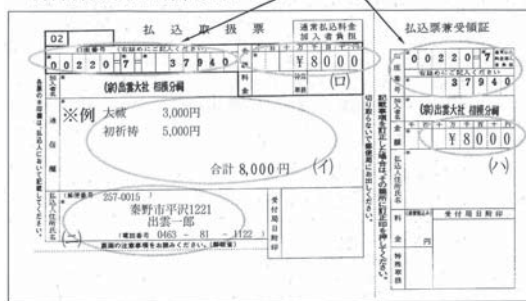
送をもちまして人形・車形を納めて頂くことができます。御祈願料のお気持ちを添えてご郵送下さい。後日、茅の輪飾りの縁起物を発送致します。お越し下さい。(予約不要・当日参加可) 大変込み合いますので二十分前にはお越し下さい。

【お振込み票の使い方】

お振込み分の金額を『払込取扱票(イ)』及び『払込票兼受領証(ロ)』の金額の欄にご記入下さい。又、『払込人住所氏名(ハ)』欄は必ずお書きの上、郵便局の窓口にご提出下さい。尚、金額は一例であり、大祓のご祈禱料はお気持ちとなっております。



※口座番号
祈禱料振り込み票記入例



夏越の大祓とは

人が知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを取り除き、それによって災厄を避ける事を目的とした神事です。古代・中世より行われるもとも古く神道儀礼の一つでもあり、

人形・車形とは

人形とは古くより禊や祓をするときに人間の身代わりとして用いてきました。無物(なでももの)ともいひ厄を移した後、川などに流してました。平安時代には宮中では陰陽師に人形を奉らせて七瀬の祓という行事が行われました。同様なことが三月の節句に行われ、流し雛となり、今では川に流すことなく桃の節句のひな人形にその伝統が残っております。当社分祠では夏冬の大祓の際に、人形(ひとがた)・車形(くるまがた)をご用意し、人形・車形を形代(かたしろ)にして自らの罪穢れを移し取

り、毎年六月の晦日、十二月の晦日の二回行い、それぞれ正月より六月晦日まで七月より十二月大晦日までの半年ごとの罪穢れをお祓いします。

わけても、江戸時代以降はこの六月の夏越の大祓には茅の輪くぐりの神事が斎行されることが多くなったとされます。当分祠でも恒例行事として毎年欠かさず手作りの茅の輪くぐり製作をしており、奉仕会の有志が秦野盆地の山に赴き茅を切り出し、それをシュロ紐で結びつけ人がくぐるほどの大きい輪を作成します。

しかし、これが難しく茅の具合や締め付けの強さなど細心の注意をはらう必要があります。均一な太さに編み込むには熟練の技が必要とされます。

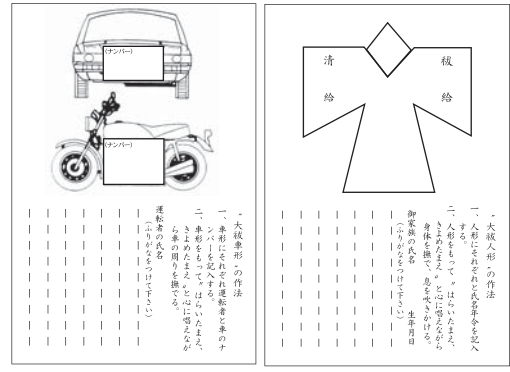
り、お祓いします。人形の紙に生年月日・氏名を記入し、息を三回吹きかけ、頭から全身気になる場所を撫で(すり)、悪い気を執り移してお祓いします。同様に愛用してあります乗用車・バイク等の無事故・交通安全を祈念し、車形に住所・氏名・ナンバーを記入して乗用車、二輪、バイクなどの四方を撫でこすって罪穢れをお祓いし、当分祠にお納め下さい。運転者の氏名の氏名を何人書いて頂いても結構です。

輪をくぐる際には、必ず左右と廻り、古式豊かな音色に併せて和歌を唱えることが作法とされる。

「みな月の夏越の祓えする人はちとせの命のぶといふなり」一周目
「思ふ事みなつきねとてあさの葉をきりにきりてもはらへつる哉」二周目
「宮川の清き流れに禊せば折れることの叶はぬはなし」三周目

大祓には例年百人以上の参詣者で賑い、和歌を歌いながら行列を組んで三周廻ります。茅の輪くぐりの神事を終えると、社殿に昇殿し改めて大祓

大祓の神事の際、身代わりとしてお祓いし、後ほど忌火をもつて無に帰します。この人形・車形は大祓の当日も分祠にご用意しておりますので、ぜひご参加下さいませ。



なんで茅の輪をくぐるの？

その答えは出雲神話に伝えられております。備後国風土記の中で、ヤマタノオロチを倒した素盞鳴尊(スサノオノミコト)が、旅をしている途中、蘇民将来(ソミンショウライ)、巨旦将来(コタンショウライ)という兄弟のところで宿を求めたところ、弟の巨旦将来は裕福であったにも関わらず宿泊を拒んだのに対し、兄の蘇民将来は貧しいながらも喜んで厚く饗しました。その数年後、再び蘇民将来のもとを訪ねた素盞鳴尊は「もし悪い病気が流行ることがあった時には、茅で輪を作り腰につ

詞を神職の先導の下、参拝者全員で唱和します。初めての人も当日参加者一同で一度練習してから皆様ご唱和頂くので安心して参加頂けます。年々参加者も増え、日数

回数を増やして大祓の神事に取り組んでおりますが、多いときには社殿に入りきれないほどの盛況ぶりです。当日参加の方はお早めに受付をお済ませ下さいませ。



【茅の輪製作の風景】

ければ病気にかからない」と教えられました。そして疫病が流行したときに巨旦将来の家族は病に倒れましたが、蘇民将来とその家族は茅の輪で助かったというのです。この言い伝えから「蘇民将来」と書いた紙を門に貼るといふ信仰が生まれました。茅の輪も当初は伝説のとおり小さなものを腰に付けるといふものでしたが、江戸時代初期になり、大きな茅の輪をくぐって罪や災いと取り除くという神事になったと言われているとされています。当分祠でも参列の方に授与品として手作りの茅の輪を授与しております。